



田中 卓二

はじめに

和歌山県紀の川市をご存じですか？

東京や大阪でこういったアンケートをすると、「知りません」とそつ
けなく答えられることが多く、愕然^{がくぜん}としてしまうことがあります。

貴志川線の猫のたま駅長、めっけもん広場、粉河寺、あら川の桃、青
洲の里など一つひとつの観光資源については知られているのですが、「紀
の川市」というブランドは、まだまだ知られていません。

よく考えてみれば、それも仕方がないことなのかもしれません。とい
うのは、紀の川市は平成一七年一月に旧打田町^{うちだ}、旧粉河町^{こながわ}、旧那賀町^{なが}、
旧桃山町^{ももやま}、旧貴志川町^{きしがわ}の旧五町が合併してできたばかりの新しい市です。

旧町がそれぞれ五〇年かけて心血を注いでつくってきた拠点施設やブランドが、「紀の川市」の知名度よりも優越するのは、当然のことだと思います。

私は、平成一九年四月、農林水産省から派遣され、紀の川市役所に理事兼農林商工部長として赴任しました。いったんは、国を辞職した形です。合併したばかりの「紀の川市」の地域振興やブランドづくりをどうしていくのか。赴任してからは、日々悩みながら仕事をしてきました。そういった中で一つの解としてたどりついたのが「食育のまちづくり」です。紀の川市は、いちじく、はっさく、桃、柿、キウイフルーツなどの果物で全国有数の生産高を誇る農業市です。また、全国一の農産物直売所「めつけもん広場」や健康バイキングで知られる「せいしゅう青洲の里」もあります。学校給食への地場農産物の活用などにも積極的に取り組んでいます。こういった取組を包含する方向性として「食育のまちづくり」を進めるのがいいのではと考えました。

「食育」という言葉は、平成一七年に食育基本法が制定されて以来、

巷間こうかん使われるようになってきましたが、「食育」を基本としたまちづくりを進めている自治体は、そう多くありません。紀の川市では、食育のまちづくりを、次のように順次進めてきました。

平成二〇年 紀の川市食育推進計画、食育フェア

平成二一年度 地方の元気再生事業

平成二二年 「食育のまち」宣言

平成二二～二四年度 わがまち元気プロジェクト

紀の川市で食育のまちづくりを進めていくに当たって、私は次のことを心がけました。

○市民主体で進めること

協働という言葉がありますが、市役所主導ではなく、市民と市職員が協調して食育を進めることによって、「食育のまち紀の川市」が市民に根付くものとなると考えました。

○市職員が職域をこえてやりがいをもって取り組むこと

食育は、農林商工部、保健福祉部、教育部など市役所の各部にまたがった取組です。各部の市職員が職域をこえて、やりがいをもって取り組む

ことが重要と考えました。

○紀の川市を「食育のまち」として全国にアピールすること

「食育」の取組だけでは、市内での啓発普及に終わってしまふ可能性があります。紀の川市として食育に積極的に取り組むことによって、全国にアピールできるようなまちづくりを目指したいと考えました。

この本では、次の章立てで、これら紀の川市における食育のまちづくりを中心に紹介していきたいと思います。第一章～第五章までは食育のまちづくりについて、第六章は投稿記事や講演記録など、第七章は私が紀の川市でつくった歌について紹介していきます。最後までおつきあいただければ幸いです。

第一章 「食」豊かな紀の川市

第二章 食育の背景

第三章 紀の川市食育推進計画

第四章 地方の元気再生事業

第五章 「食育のまち」宣言とこれから

第六章 講演とまちづくりー投稿記事・講演記録等ー

第七章 歌とまちづくり